

爾の父と母を恨み入るに如く爾の隣を愛すべし、少者かれに曰けるは是も我の足けあきより引れるも、
のかり何の虧たるどころ我にある乎、イエス彼に曰けるは余からん事を欲せざらん、若し爾が所有を賣て貧者
に施せ、然れば天に於て財を有し、且て我に來りて、我に貧乏の言を聽て、憂ひ、夫の彼の産業はいかにかりけ
れば也、イエス、爾の弟子に曰けるは、爾に爾曹に告ぐ、貧乏者、天國に入ると、難し、また爾曹に告ぐ、
神の國に入り、人の脚蹤の釘の孔を穿るは、却て易し、弟子之を聞て、甚く驚き、曰けるは、然則誰か救を受けべき
乎、イエス彼等を見て曰けるは、是人に入ること難し、然し、神に入ること難し、神に入ること難し、神に入ること難し、
て、イエスに曰けるは、我債一切を棄て、爾に従へり、然らば、何を得べき乎、イエス彼等に曰けるは、我まことに爾
曹に告ぐ、救に從入る爾曹の世あらまたり、人の子榮光の位に坐する時、人よりも十二の位に坐して、イスマ
エルの十二の支派を嗣べし、凡て我名の爲に家宅あるハハ兄弟あるハハ兄弟あるハハ父あるハハ母ある
ハハ妻あるハハ子あるハハ子あるハハ田疇を棄る者、ハハ百倍を要かつ、窮かき生を嗣ん、多の先ある者、後になり、後か
る者、ハハ先になるべし、

第三十三節 爾曹、爾天國の朝を、や、出て、爾曹に工人を雇ふ主人の如く、工人は一日に銀一枚を、
り、約東をなし、彼等を葡萄園に遣せり、また九時で、出て、街に、徒く立る者を見て、爾曹も葡萄園に、ゆけ、
か、立たる者、過て、曰けるは、何ゆゑ、終日、こゝに、徒く立や、之に、答て、曰けるは、我債を雇ふ者なきに、因て、
彼等に、曰けるは、爾曹も、葡萄園に、ゆけ、相當の、價を、得べし、曰く、爾曹も、葡萄園の、主人の、家等に、曰けるは、
力たる者等を、呼て、後に、雇へる者、を、始とし、先の者、に、まて、價を、給へよ、五疇、ごらに、雇へ、れし、
者ども、來りて、銀

マ太五〇一
マ太五〇二
マ太五〇三
マ太五〇四
マ太五〇五
マ太五〇六
マ太五〇七
マ太五〇八
マ太五〇九
マ太五一〇
マ太五一〇一
マ太五一〇二
マ太五一〇三
マ太五一〇四
マ太五一〇五
マ太五一〇六
マ太五一〇七
マ太五一〇八
マ太五一〇九
マ太五一一〇
マ太五一一〇一
マ太五一一〇二
マ太五一一〇三
マ太五一一〇四
マ太五一一〇五
マ太五一一〇六
マ太五一一〇七
マ太五一一〇八
マ太五一一〇九
マ太五一一一〇

一枚づつを愛たり、先の者ども來りて、我債を多く受けるならんと思ひしに、亦銀一枚づつを受て、これを賣て、
主人を怨つべきやきける、この後主者の努力たるハハ一疇、だから、なるし、みを、任わつごらに、當る、
我債を均しく之を、おせり、主人の一人に、答て、曰けるは、友よ、我、な、た、ち、に、不、義、を、せ、ず、爾、一、枚、の、約、束、を、か
きたるに、非ずや、爾のものを取て、往れ、亦、この、後、主、者、に、も、爾、の、如、く、予、ぶ、し、我、物、を、以、て、我、も、
行ひ、宜らば、平わが、善に、因て、爾の、目的、を、如、く、後、の、者、に、先、に、先、の、者、に、後、に、ある、べし、夫、よ、な、る、
ハハ多しと、思も、選る、者ハハ少し、イエス、ニ、
等に、曰けるは、我債、ニ、
た、凌、辱、を、受、ち、
子、と、信、に、
の、我、子、を、爾、の、國、に、於、て、一、人、ハ、爾、の、右、一、人、ハ、爾、の、左、に、坐、る、を、命、ぜ、よ、
こ、ろ、を、知、す、爾、曹、ハ、我、が、欲、んと、す、情、を、の、み、又、わ、が、受、ん、と、す、
べし、
る、こ、と、ハ、我、が、賜、べ、き、に、非、ず、只、わ、が、父、に、備、ら、れた、る、者、に、賜、ら、る、べし、
憤、れ、り、
曹、が、知、ど、こ、ろ、也、
る、べし、
に、ハ、非、ず、反、て、人、に、復、ば、れ、
に、非、ず、反、て、人、に、復、ば、れ、
に、非、ず、反、て、人、に、復、ば、れ、

マ太五一一
マ太五一二
マ太五一三
マ太五一四
マ太五一五
マ太五一六
マ太五一七
マ太五一一八
マ太五一九
マ太五二〇
マ太五二一
マ太五二二
マ太五二三
マ太五二四
マ太五二五
マ太五二六
マ太五二七
マ太五二八
マ太五二九
マ太五三〇
マ太五三一
マ太五三二
マ太五三三
マ太五三四
マ太五三五
マ太五三六
マ太五三七
マ太五三八
マ太五三九
マ太五四〇
マ太五四一
マ太五四二
マ太五四三
マ太五四四
マ太五四五
マ太五四六
マ太五四七
マ太五四八
マ太五四九
マ太五五〇

はくの人々イエスに從へり二人の替者路の傍に坐せりしがイエスの過ると歸て呼喚いひけるハザビの膏主よ我儕を憐みたまへ衆人これに驚れど飛び走るハザビの膏主よ我儕を憐みたまへ
 一、イエス止て之を呼ひひけるハ爾曹われに何を爲られんと願ふやイエスに曰けるハ主よ我儕目を啓んことを願ふハザビの膏主よ我儕を憐みたまへ
 二、若んぢらに何ぞか言ものあらば主の用なりと曰さらば直之を遣すべし預言者の言に觀よ爾之王

ハ乘和にして驢馬の子に乘んちらに來るとラマの女に告よと云るに應ぜん爲に如此か
 せる也弟子ゆきてイエスに命ぜり如くし驢馬と其子を牽きたり己の衣をの上に置ければイエス
 これに乗り衆人おほくハ其衣を途に布わるひハ樹枝を代て途に布ぬかつ前にゆき候に徒八人々呼ひ
 ひけるハザビの膏主よ主の名に託て來る者ハ種さかり至上處にホザビと云ふ
 れるまき都城ごどりて感動いひけるハ是語や衆人いひけるハ此ハガラヤのナサレより出たる預言

者イエスあり○イエス神の殿に入るに其中ある凡の買賣する者を選出し先銀者の案籠をうる者の椅子
 を倒し彼等お日けるハ我家ハ祈禱の家と稱らるべしと鐙ざる然るハ爾曹これを見ん御之と成せり
 者跋者ハ人々殿に入るに祭記の長と學者たち其行たすへる奇事を見ま
 たり兒童輩の殿にて呼そりガリラヤの膏主よと云を開て怒を合イエスに曰けるハ彼等が言を聞き

イエス答て曰けるハ然り嬰兒乳哺者の口に謹美を備たりと鐙されしを未だ讀ざる乎遂に彼等を驅れ都
 城を出てハザビに往りて宿れり○翌あさ都城入返るとき飢ければ路の傍にありの無花果の樹
 を見て其處本來りしに葉の他何れも見ざりしか今よりのち永久も果を結ぶことを得ざれど之に曰た

ひければ無花果立刻に枯ぬ弟子これを見て奇み曰けるハ無花果の結ると何ゆ速や
 一、イエス答て彼等
 に曰けるハ我まことに爾曹に告んも信仰ありて疑はず此無花果に於るが如耳からす此出に命じ此よ
 り移されて海に入ると云とも亦成た且あんなら信じて願らば求ふ所ごとく得べし
 一、イエス殿わ入

て教るとき祭司の長老たち來り曰けるハ何の權威を以て此事を成すや誰の權威を爾に
 子じや
 一、イエス答て彼等に曰けるハ我も一言なんからば問ん我にりの事を告かば我も何の權威をもて之
 を行といふとを爾曹に曰べしヨハンのバプテスマの何處よりぞ天よりか人よりか彼等たぐひに論じ

曰けるハ若し天よりぞ云バ然バ何ゆか信せざるかと云んもし人よりぞ云バ我儕民を畏る蓋みホヤ
 一、イエス答て
 預言者を爲りて遂に答て知すと曰イエス彼等に曰けるハ我も何の權威を以て之を行ハ爾曹に語ら
 ば
 爾曹いかに意ふや或二人の子ありしが長子本來りて曰けるハ子よよ今日わが葡萄園に往て働け
 て否と曰じがち悔て往たりまた次子にも前に如く曰けるに答て君も我往べしと曰いしが遂に往ざり

三、二人のものが孰か父の旨に遵ひし從等いひけるハ長子なり
 一、イエス彼等に曰けるハ爾曹に告ん御其
 かよ次娼奴ハ爾曹より先に神の國に入べし夫ヨハ子義道をもて來りしに爾曹これに信せず我義道は
 一、
 爾曹を信じたり爾曹これを見てなほ信ぜぬも亦彼を信せざるや
 一、
 一、また一の譬を聞かざる家の主人葡萄園を
 樹り爾曹を遣ち其中に酒樽を造り地を肥らして農夫に貸て他の國へ往じしが果期ちかづきければ兵眾を收ん

爲に僕を農夫のもとに遣せり農夫ども其僕等を鞭へ一人を鞭ち一人を殺し一人を石わて擊りまた他
 二、
 一、
 一、
 一、
 一、
 一、
 一、
 一、
 一、
 一、
 一、
 一、
 一、

新約全書 馬太傳 第二十一章 自三十五至二十一章十七節

一	五	五〇九
二	五	五〇九
三	五	五〇九
四	五	五〇九
五	五	五〇九
六	五	五〇九
七	五	五〇九
八	五	五〇九
九	五	五〇九
十	五	五〇九
十一	五	五〇九
十二	五	五〇九
十三	五	五〇九
十四	五	五〇九
十五	五	五〇九
十六	五	五〇九
十七	五	五〇九
十八	五	五〇九
十九	五	五〇九
二十	五	五〇九
二十一	五	五〇九
二十二	五	五〇九
二十三	五	五〇九
二十四	五	五〇九
二十五	五	五〇九
二十六	五	五〇九
二十七	五	五〇九
二十八	五	五〇九
二十九	五	五〇九
三十	五	五〇九
三十一	五	五〇九
三十二	五	五〇九
三十三	五	五〇九

の僕を前よりも多く遣しけるに之にも前の如くさせり我子の欲入らんと謂て終に其子を遣しけるに
 農夫等の子を見て互に曰ける此の嗣子か、此の嗣子か、我を殺して其産業をも奪ふべし、即ち之を執へ葡萄
 園より逐出して殺せり、然る葡萄園の主人きたらんと時にこの農夫に何を爲すべき乎、彼等イエナに曰ける
 ハ此等の惡人を甚く罰滅し、期に及てその果を納る他の農夫に葡萄園を貸すべし、イエナ彼等に曰ける
 ハ聖書に工匠の棄たる石、匠家の門の首石と云ふ、されり是主の行給るごとにして、我儕の目に奇とする所ありと
 録されしを未だ讀ざる乎、是故に我かたがらに告ぐん神の國を爾曹より奪ひ、其の果を給ふ民に予らべし、
 この石の上に墜るもの、壇の石上に墜れば、其もの碎かるべし、祭司の長等もよび、パリサイの人、かれの
 譬を開き、これらをして指して言るを讀、イエナを執へんと欲ひ謀しかば、唯民を畏れ、蓋人々、かれを預言者ぞす
 れ也、
 彼等に曰ける、我の筵すべに備れ、我が牛、まて肥畜をも、宰りて盡く備り、たれば、婚筵に來れど、請たる者に言、然と
 も、彼等かへりみ、まとして去ぬ、其一ハ己の田にゆき、一ハ己の貿易に往り、他の者等ハ、その僕を執へ辱し
 めて殺せり、王これを見て、怒り、軍勢を遣して、其殺せる者を止む、又、其の邑を燒たり、是に於て、その僕等に
 曰ける、婚筵すべに備れ、ど、請たる者、其の客に往り、婚筵に往り、遇ほ、その者を婚筵に請け
 うの僕筵に出て、善者をも、惡者をも、惡は、その客に往り、婚筵の客を充満す、王客を見んとて、來りけ
 るに、筵に一人の禮服を着ざる者あるを見て、之に曰ける、友よ、如何なれば、禮服を着ずして、此處に來る乎、
 我儕の中に兄弟七人ありしが、兄どとりて死す、其妻を次子に遺れり、その二の三の七まで、
 皆然す、後つひに、婦もまた死たり、其の妻と爲べきは、是は、みか、亦、彼を娶し者、かれ
 之也、イエナ答て、彼等、曰ける、爾曹聖書をも、神の能力をも、知ざる、よ、由て、謬れり、爾等、と、ど、り、娶ら
 ず、嫁す、天ある神の、御等の、如し、死し者、の、甦る、こと、に、就て、ハ、爾曹、神の、告た、ま、ひ、し、言に、我ハ、ア、ブ、ラ、ハ
 ヲの神、イサクの神、ヤコブの神、なり、と、ある、を、未だ、讀、ざる、乎、も、く、神の、死し者、の、神、お、非、ず、生、る、者、の、神、なり、
 人々、これを見て、其訓を驚けり、○イエナ、パリサイの人をして、口を塞がしめたり、と、聞て、パリサイの人一
 處に集りける、その中、ある一人の、教法、師、イエナを、試み、ん、爲、本、問て、曰ける、師よ、律法のうち、何の、誡か
 大なる、イエナ答ける、ハ、爾、心、を、盡し、精神を盡し、主なる、爾の、神を、愛すべし、これ第一、かして、大な

ルカ六二
マ太六二
マ太六三
マ太六四
マ太六五
マ太六六
マ太六七
マ太六八
マ太六九
マ太七〇
マ太七一
マ太七二
マ太七三
マ太七四
マ太七五
マ太七六
マ太七七
マ太七八
マ太七九
マ太八〇
マ太八一
マ太八二
マ太八三
マ太八四
マ太八五
マ太八六
マ太八七
マ太八八
マ太八九
マ太九〇
マ太九一
マ太九二
マ太九三
マ太九四
マ太九五
マ太九六
マ太九七
マ太九八
マ太九九
マ太一〇〇
マ太一〇一
マ太一〇二
マ太一〇三
マ太一〇四
マ太一〇五
マ太一〇六
マ太一〇七
マ太一〇八
マ太一〇九
マ太一一〇
マ太一一一
マ太一二二
マ太一二三
マ太一二四
マ太一二五
マ太一二六
マ太一二七
マ太一二八
マ太一二九
マ太一三〇
マ太一三一
マ太一三二
マ太一三三
マ太一三四
マ太一三五
マ太一三六
マ太一三七
マ太一三八
マ太一三九
マ太一四〇
マ太一四一
マ太一四二
マ太一四三
マ太一四四
マ太一四五
マ太一四六
マ太一四七
マ太一四八
マ太一四九
マ太一五〇
マ太一五一
マ太一五二
マ太一五三
マ太一五四
マ太一五五
マ太一五六
マ太一五七
マ太一五八
マ太一五九
マ太一六〇
マ太一六一
マ太一六二
マ太一六三
マ太一六四
マ太一六五
マ太一六六
マ太一六七
マ太一六八
マ太一六九
マ太一七〇
マ太一七一
マ太一七二
マ太一七三
マ太一七四
マ太一七五
マ太一七六
マ太一七七
マ太一七八
マ太一七九
マ太一八〇
マ太一八一
マ太一八二
マ太一八三
マ太一八四
マ太一八五
マ太一八六
マ太一八七
マ太一八八
マ太一八九
マ太一九〇
マ太一九一
マ太一九二
マ太一九三
マ太一九四
マ太一九五
マ太一九六
マ太一九七
マ太一九八
マ太一九九
マ太二〇〇
マ太二〇一
マ太二〇二
マ太二〇三
マ太二〇四
マ太二〇五
マ太二〇六
マ太二〇七
マ太二〇八
マ太二〇九
マ太二一〇
マ太二一一
マ太二一二
マ太二一三
マ太二一四
マ太二一五
マ太二一六
マ太二一七
マ太二一八
マ太二一九
マ太二二〇
マ太二二一
マ太二二二
マ太二二三
マ太二二四
マ太二二五
マ太二二六
マ太二二七
マ太二二八
マ太二二九
マ太二三〇
マ太二三一
マ太二三二
マ太二三三
マ太二三四
マ太二三五
マ太二三六
マ太二三七
マ太二三八
マ太二三九
マ太二四〇
マ太二四一
マ太二四二
マ太二四三
マ太二四四
マ太二四五
マ太二四六
マ太二四七
マ太二四八
マ太二四九
マ太二五〇
マ太二五一
マ太二五二
マ太二五三
マ太二五四
マ太二五五
マ太二五六
マ太二五七
マ太二五八
マ太二五九
マ太二六〇
マ太二六一
マ太二六二
マ太二六三
マ太二六四
マ太二六五
マ太二六六
マ太二六七
マ太二六八
マ太二六九
マ太二七〇
マ太二七一
マ太二七二
マ太二七三
マ太二七四
マ太二七五
マ太二七六
マ太二七七
マ太二七八
マ太二七九
マ太二八〇
マ太二八一
マ太二八二
マ太二八三
マ太二八四
マ太二八五
マ太二八六
マ太二八七
マ太二八八
マ太二八九
マ太二九〇
マ太二九一
マ太二九二
マ太二九三
マ太二九四
マ太二九五
マ太二九六
マ太二九七
マ太二九八
マ太二九九
マ太三〇〇
マ太三〇一
マ太三〇二
マ太三〇三
マ太三〇四
マ太三〇五
マ太三〇六
マ太三〇七
マ太三〇八
マ太三〇九
マ太三一〇
マ太三一〇
マ太三一〇

の訓あり 第二も亦これに同じ巴の如く爾の隣を愛すべし 凡の律法と預言者ハ此二の訓ハ因り

リサノ人の集れる時イエス從等お問て曰けるハ爾曹キリストハつひて如何おもふ乎これ証の子ある

カ彼等イエスハ曰けるハガビラの裔裔あり 彼等ハ曰けるハ然ハガビラハ爾曹を感じて何故これを主と稱へし

平ガビラ言主ガ主に曰けるハ我ハ尔ハガビラハ爾曹の足登也亦すで我ハみぎハ坐すべしと 然ハガビラ

既ハ志を主と稱たれハ如何の子ならん乎 誰一言これハ答る可也能ハ亦此日より取テ又ハ人者亦かり

き

厥時イエスハ人々を弟子とお告て曰けるハ 學者とパリサイの人ハモ一セの位に坐す 故

ハ凡て彼等ガ爾曹に言て行ふべし然ハ彼等ガ行ふ所を爲て勿れ蓋かれらハ言のみにして行

之され也 又彼等ハ重カク負たき荷を捨て人の肩に負せ己ハ一の指をもて之を動かすてとすら好

彼等の行ハ凡て人ハ見めんが爲にする也ラハ佩經を幅潤し其衣の裾を大かし 又徒座會堂の

高座 市上の閑安人々よりラビラヒと稱られんことを好む 爾曹ハラビの稱を受て勿れ蓋なんぢら

の師ハ一人す亦之キリストナリ 爾曹ハみ弟兄亦かり 又地に在る者之父と稱るて勿れ爾曹の父ハ

一人す亦之ヲ天オ在す者亦かり 又導師の稱を受て勿れ蓋なんぢらハ導師ハ一人す亦之キリスト

ガリ 爾曹のうち大なる者ハ爾曹の僕と爲べし 凡ハ自己を高する者ハ卑せられ自己を卑する者ハ高

られん ○ 臆なんぢらハ禍なるかな偽善なる學者とパリサイの人ハ蓋んぢらハ禍なるかな偽

善且いらんとする者を入をも聞ざれば心也 臆なんぢらハ禍なるかな偽善なる學者とパリサイの人ハ蓋ん

んぢらハ爾曹の家を呑いつはりて長き桁をなす之ハ由て爾曹も重刑を受へけれど也 あり禍なるかな偽

善者ハ神の寶座および其上に坐する者をして善と爲す ○ 臆なんぢらハ禍なるかな偽善なる學者とパ

リサイの人ハ蓋んぢらハ薄荷 茴香 馬鹿の十分の一を取給て律法の最も重き義と仁と信とを爾曹ハ廢入れ

行ハ可もの也 彼も亦廢べからざる者ナリ 善者なる相者ハ爾曹ハ蟻を溝出して駢駢を呑もの也 あり禍

なるかな偽善なる學者とパリサイの人ハ爾曹杯と盤の外を潔して内にハ貪欲と淫欲とを充せり 善且ん

るパリサイの人ハ爾曹まづ杯と盤の内を潔せし然ハ外も亦きよまるべし ○ 臆なんぢらハ禍なる

善なる學者とパリサイの人ハ爾曹ハ白く塗る意に似たり 外ハ美しく見れども内ハ骸骨と諸の汚穢にて

充 此の如く爾曹もまた外ハ義人に見れども内ハ偽善と不法にて充 臆なんぢらハ禍なるかな偽善

學者とパリサイの人ハ爾曹預言者の墓をたて義人の碑を飾れり 又ハ人我儔もし先祖の時にありハ預言

者の血を流すてどに與せざりしと 然ハ爾曹ハ預言者を殺し者の裔あることを自ら隠す かなぢら先

祖の量を充せ 此蟻の類ハ爾曹の如く 地獄の刑罰を免れんや 是故に我爾曹ハ預言者と智者と學者を遺

さんに或ハ之を殺じ又十字架ハ釘或ハ其會堂にて之を鞭ハ或ハ邑より邑ハ逐めめん あり義あるアル

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

の訓あり 第二も亦これに同じ巴の如く爾の隣を愛すべし 凡の律法と預言者ハ此二の訓ハ因り

リサノ人の集れる時イエス從等お問て曰けるハ爾曹キリストハつひて如何おもふ乎これ証の子ある

カ彼等イエスハ曰けるハガビラの裔裔あり 彼等ハ曰けるハ然ハガビラハ爾曹を感じて何故これを主と稱へし

平ガビラ言主ガ主に曰けるハ我ハ尔ハガビラハ爾曹の足登也亦すで我ハみぎハ坐すべしと 然ハガビラ

既ハ志を主と稱たれハ如何の子ならん乎 誰一言これハ答る可也能ハ亦此日より取テ又ハ人者亦かり

き

厥時イエスハ人々を弟子とお告て曰けるハ 學者とパリサイの人ハモ一セの位に坐す 故

ハ凡て彼等ガ爾曹に言て行ふべし然ハ彼等ガ行ふ所を爲て勿れ蓋かれらハ言のみにして行

之され也 又彼等ハ重カク負たき荷を捨て人の肩に負せ己ハ一の指をもて之を動かすてとすら好

彼等の行ハ凡て人ハ見めんが爲にする也ラハ佩經を幅潤し其衣の裾を大かし 又徒座會堂の

高座 市上の閑安人々よりラビラヒと稱られんことを好む 爾曹ハラビの稱を受て勿れ蓋なんぢら

の師ハ一人す亦之キリストナリ 爾曹ハみ弟兄亦かり 又地に在る者之父と稱るて勿れ爾曹の父ハ

一人す亦之ヲ天オ在す者亦かり 又導師の稱を受て勿れ蓋なんぢらハ導師ハ一人す亦之キリスト

ガリ 爾曹のうち大なる者ハ爾曹の僕と爲べし 凡ハ自己を高する者ハ卑せられ自己を卑する者ハ高

られん ○ 臆なんぢらハ禍なるかな偽善なる學者とパリサイの人ハ蓋んぢらハ禍なるかな偽

善且いらんとする者を入をも聞ざれば心也 臆なんぢらハ禍なるかな偽善なる學者とパリサイの人ハ蓋ん

んぢらハ爾曹の家を呑いつはりて長き桁をなす之ハ由て爾曹も重刑を受へけれど也 あり禍なるかな偽

善者ハ神の寶座および其上に坐する者をして善と爲す ○ 臆なんぢらハ禍なるかな偽善なる學者とパ

リサイの人ハ蓋んぢらハ薄荷 茴香 馬鹿の十分の一を取給て律法の最も重き義と仁と信とを爾曹ハ廢入れ

行ハ可もの也 彼も亦廢べからざる者ナリ 善者なる相者ハ爾曹ハ蟻を溝出して駢駢を呑もの也 あり禍

なるかな偽善なる學者とパリサイの人ハ爾曹杯と盤の外を潔して内にハ貪欲と淫欲とを充せり 善且ん

るパリサイの人ハ爾曹まづ杯と盤の内を潔せし然ハ外も亦きよまるべし ○ 臆なんぢらハ禍なる

善なる學者とパリサイの人ハ爾曹預言者の墓をたて義人の碑を飾れり 又ハ人我儔もし先祖の時にありハ預言

者の血を流すてどに與せざりしと 然ハ爾曹ハ預言者を殺し者の裔あることを自ら隠す かなぢら先

祖の量を充せ 此蟻の類ハ爾曹の如く 地獄の刑罰を免れんや 是故に我爾曹ハ預言者と智者と學者を遺

さんに或ハ之を殺じ又十字架ハ釘或ハ其會堂にて之を鞭ハ或ハ邑より邑ハ逐めめん あり義あるアル

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

ナリ九 六 六 九 十

すまじ 然ハ爾曹もまた預備せし意なき時ハ人の子きたらんと爲心なり 時に及て糧を僕等にすばす 爲に主人がその僕等の上に立たる忠義に於て智僕ハ誰かの手の主人の來らん時かくの如く勸むるを見 くるハ運らんを意ひ 一の冊巻を打擲きて酒に酔たる者どもと共に飲食し好むべき 一の僕の主人ハ 之を斬殺し其報を偽善者と同らうすべし其處にて哀聖切齒すること有

とざるの日まらざるの時に来りて

一五 之を斬殺し其報を偽善者と同らうすべし其處にて哀聖切齒すること有

一八 天國ハ其燈を執て新郎を迎に出る十八の童女に比ぶべし 一の五人ハ智く五人ハ 愚かり 愚なる者ハ其燈をざるに油を携へざりしが 智き者ハ其燈と兼に油を器に携へたり 新郎 かりけられたる假寐して眠れり 夜半に叫びて新郎きたりぬ出て迎ふと呼籲ありければ 一の童女ども 皆おきて其燈を整へたるに 愚なるもの智き者に曰けるハ我儕の燈燭んとす願くハ爾曹の油を我儕に分 けしめ 智きもの答て曰けるハ我儕と爾曹とに恐くハ足まじ爾曹買者に往て己が爲に買 べからざるを 任じしとき新郎きたりければ既に備たる者ハ之を備に婚に進入し心門を開られたり 斯て後方の 一の 女のきたりて曰ける之主と主人と我儕の爲に開たれ 答て我まことに爾曹に告ぐ我ハ爾曹を知らずと曰り 然ハ慮りずして守れ爾曹の日の時を知ざれば也 一の 天國の或人の旅行せんとして其僕をよび 有を彼等に預るが如し 各人の智慧に從ひて或者にハ銀五千或者にハ二千或者にハ一千を守り直に旅 行せり 五千の銀を受し者ハ往て之を貿易し他に五千を得たり 二千を受し者もまた他に二千を得たり 然るに一手を受し者ハ往て地を掘り 一の金の窟を藏せり 歴久て後方の 一の 僕等の主かへりて彼等と會計せ

一 本五章一〇五節
二 本五章一〇六節
三 本五章一〇七節
四 本五章一〇八節
五 本五章一〇九節
六 本五章一一〇節
七 本五章一一一節
八 本五章一一二節
九 本五章一一三節
一〇 本五章一一四節
一一 本五章一一五節
一二 本五章一一六節
一三 本五章一一七節
一四 本五章一一八節
一五 本五章一一九節
一六 本五章一二〇節
一七 本五章一二一節
一八 本五章一二二節
一九 本五章一二三節
二〇 本五章一二四節
二一 本五章一二五節
二二 本五章一二六節
二三 本五章一二七節
二四 本五章一二八節
二五 本五章一二九節
二六 本五章一三〇節
二七 本五章一三一節
二八 本五章一三二節
二九 本五章一三三節
三〇 本五章一三四節
三一 本五章一三五節
三二 本五章一三六節
三三 本五章一三七節
三四 本五章一三八節
三五 本五章一三九節
三六 本五章一四〇節
三七 本五章一四一節
三八 本五章一四二節
三九 本五章一四三節
四〇 本五章一四四節
四一 本五章一四五節
四二 本五章一四六節
四三 本五章一四七節
四四 本五章一四八節
四五 本五章一四九節
四六 本五章一五〇節
四七 本五章一五一節
四八 本五章一五二節
四九 本五章一五三節
五〇 本五章一五四節
五一 本五章一五五節
五二 本五章一五六節
五三 本五章一五七節
五四 本五章一五八節
五五 本五章一五九節
五六 本五章一六〇節
五七 本五章一六一節
五八 本五章一六二節
五九 本五章一六三節
六〇 本五章一六四節
六一 本五章一六五節
六二 本五章一六六節
六三 本五章一六七節
六四 本五章一六八節
六五 本五章一六九節
六六 本五章一七〇節
六七 本五章一七一節
六八 本五章一七二節
六九 本五章一七三節
七〇 本五章一七四節
七一 本五章一七五節
七二 本五章一七六節
七三 本五章一七七節
七四 本五章一七八節
七五 本五章一七九節
七六 本五章一八〇節
七七 本五章一八一節
七八 本五章一八二節
七九 本五章一八三節
八〇 本五章一八四節
八一 本五章一八五節
八二 本五章一八六節
八三 本五章一八七節
八四 本五章一八八節
八五 本五章一八九節
八六 本五章一九〇節
八七 本五章一九一節
八八 本五章一九二節
八九 本五章一九三節
九〇 本五章一九四節
九一 本五章一九五節
九二 本五章一九六節
九三 本五章一九七節
九四 本五章一九八節
九五 本五章一九九節
九六 本五章二〇〇節
九七 本五章二〇一節
九八 本五章二〇二節
九九 本五章二〇三節
一〇〇 本五章二〇四節

五千の銀を受し者ハ 他五千の銀を携來りて 主と我に五千の銀を預じが他に五千の銀を儲たり といければ 主かれ曰けるハ 善かつ忠ある僕ハ爾曹なる事に忠なり 我んちにも多ものを督らせん 爾の主人の歡樂に入よ 二千の銀を受し者きたりて 主と我ハ二千の銀を預じが他に二千の銀を儲たり といければ 主かれ曰けるハ 善かつ忠ある僕ハ爾曹なる事に忠なり 我んちにも多ものを督らせん 爾の主人の歡樂に入よ 又た一千の銀を受し者きたりて 曰けるハ 主と爾ハ 爾の主人の 物を得たり 主の主人の歡樂に入よ 主と我に一千の銀を預じが他に二千の銀を儲たり といければ 主かれ曰けるハ 善かつ忠ある僕ハ爾曹なる事に忠なり 我んちにも多ものを督らせん 然らば 我ハ金を兌換銀に預置べきなり 然ハ我ハ我歸たるべき本と利とを受べし 是故に彼の一千の銀を 取りて 一千の銀ある者にすよ 一 有る者ハ 予らて 何れあり 有る者ハ 予らて 何れあり 有る者ハ 予らて 何れあり 益ある僕等の外の幽暗に逐やれ 其處にて 哀聖切齒すること有ん 一の 子ハ 爾の 樂光をもて 諸の 聖徒を 率來る時ハ 一の 樂光の位に坐し 萬國の民ハ 一の 前に 集め 羊を牧者の 綿羊と 山羊とを 別が ち 綿羊を 一の 右に 山羊を 一の 左に 置べし 斯て 王の 右に 在る者に 云ん 我ハ 汝に 悪く 來りて 創世 より 以來 汝の 爲に 備られたる 國を 嗣 蓋ん 余ら 我ハ 飢し 時われに 食せ 濁し とき 我に 飲せ 旅せし 時われを 宿らせ 裸なり 時われに 表せ 病し とき 我を みる 以 獨に 在し とき 我に 就れば なり 是に 於て 義 者かれに 答て 云ん 主よ 何時 ならん 汝の 御たる を見る 食せ させ 置きたる 爾に 至りし 乎 王て たへて 彼等に 曰ん 我まこと 宿らせ 裸なるに 衣しや 何時 主の 病また 獨に 在を見て 爾に 至りし 乎 王て たへて 彼等に 曰ん 我まこと 爾曹に 告ぐん 既に 爾曹ハ 此兄弟の 最微者の一 人に入へるハ 即ち 我に行し 亦 遂に きたる 者に 在る

一 本五章一九七節
二 本五章一九八節
三 本五章一九九節
四 本五章二〇〇節
五 本五章二〇一節
六 本五章二〇二節
七 本五章二〇三節
八 本五章二〇四節
九 本五章二〇五節
一〇 本五章二〇六節
一一 本五章二〇七節
一二 本五章二〇八節
一三 本五章二〇九節
一四 本五章二一〇節
一五 本五章二一一節
一六 本五章二一二節
一七 本五章二一三節
一八 本五章二一四節
一九 本五章二一五節
二〇 本五章二一六節
二一 本五章二一七節
二二 本五章二一八節
二三 本五章二一九節
二四 本五章二二〇節
二五 本五章二二一節
二六 本五章二二二節
二七 本五章二二三節
二八 本五章二二四節
二九 本五章二二五節
三〇 本五章二二六節
三一 本五章二二七節
三二 本五章二二八節
三三 本五章二二九節
三四 本五章二三〇節
三五 本五章二三一節
三六 本五章二三二節
三七 本五章二三三節
三八 本五章二三四節
三九 本五章二三五節
四〇 本五章二三六節
四一 本五章二三七節
四二 本五章二三八節
四三 本五章二三九節
四四 本五章二四〇節
四五 本五章二四一節
四六 本五章二四二節
四七 本五章二四三節
四八 本五章二四四節
四九 本五章二四五節
五〇 本五章二四六節
五一 本五章二四七節
五二 本五章二四八節
五三 本五章二四九節
五四 本五章二五〇節
五五 本五章二五一節
五六 本五章二五二節
五七 本五章二五三節
五八 本五章二五四節
五九 本五章二五五節
六〇 本五章二五六節
六一 本五章二五七節
六二 本五章二五八節
六三 本五章二五九節
六四 本五章二六〇節
六五 本五章二六一節
六六 本五章二六二節
六七 本五章二六三節
六八 本五章二六四節
六九 本五章二六五節
七〇 本五章二六六節
七一 本五章二六七節
七二 本五章二六八節
七三 本五章二六九節
七四 本五章二七〇節
七五 本五章二七一節
七六 本五章二七二節
七七 本五章二七三節
七八 本五章二七四節
七九 本五章二七五節
八〇 本五章二七六節
八一 本五章二七七節
八二 本五章二七八節
八三 本五章二七九節
八四 本五章二八〇節
八五 本五章二八一節
八六 本五章二八二節
八七 本五章二八三節
八八 本五章二八四節
八九 本五章二八五節
九〇 本五章二八六節
九一 本五章二八七節
九二 本五章二八八節
九三 本五章二八九節
九四 本五章二九〇節
九五 本五章二九一節
九六 本五章二九二節
九七 本五章二九三節
九八 本五章二九四節
九九 本五章二九五節
一〇〇 本五章二九六節